

日本語 (6)



目次

イソップ物語

- 一 からすと くじやく
- 二 こうもり

わたしたちの国

- 一 国旗と国歌
- 二 地図を見る

三 国の歩み

四 ジョゼー||ボニファシオ

五 ベンジャミン||コンスタンテ

「花」につくことば

手品

大むかしの 人の くらし

一 インジオの やり

二 むかしの 人の くらし

三 ブラジルの インジオ

目の 病氣

森の 友だち (げき)

かん字に ついて

一 かん字の 始まり

二 部分の 名まえ

三 おん読みと くん読み

四 かん字の 形

五 かん字の 筆順

あの 町 この 町

リオ||デ||ジャネイロ

こん虫の 話

一 ブラジルの ちょう

二 こん虫さい集の 道具

三 こん虫ひょう本の 作り方

四 ちょうの りんぷんを 転写する しかた

五 こん虫

かじ屋さんと ろば

音楽会

一 楽器の いろいろ

二 音楽会

三 カルロス||ゴメス

なし売り

おもな ことば

今までに ならった かん字

新しい かん字

先生と 父母へ

(004. jpg 挿絵あり)

イソップ物語

一 からすと くじやく

野原の からすが 言ったとき。

「カアカア、からすは もう いやだ。」

なかまを すてて、ただ ひとり、

ごてんの 庭に 飛んでった。

庭に くじやくが 遊んでた。

「すてきな はねを 見つけたぞ。」

からすは 拾って うれしがり、

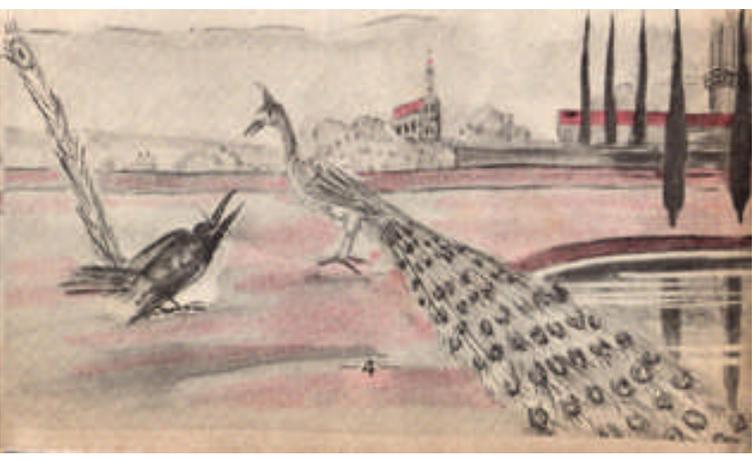
おぼねに さして とくい顔。

くじやくが わらって 言ったとき。

「付けばねなんか すぐ 落ちる。」

そんな すがたは おかしいよ。」

しよげた からすは 鳴きながら、



もとの 野原に 飛んでった。

カアカア、なかまは 口々に、

「くじやくの まねした ばか者だ。」

からは からすで けっこうさ。」

きらわれがらすは えだの 上、

ひとりぼっちに なったとき。

(新漢字 語庭 飛遊 拾付 落鳴)

(005. jpg)

二 こうもり

けものたちと 烏たちが 戦い

を 始めました。

「烏なんかに 負ける ものか。」

ひょうや ぞうや ライオンが、

まっ先に 立って せめて いき

ました。

「それ、空から せめて いけ。」



わしや たかや とびたちが、空
高く まい上がりました。

初めの うち こうもりは、どち
らにも つかないで 戦いを 見て
いました。

けもの の 方が、勝ちそうにな
って きました。こうもりは、けも
のたちの 所に 行きました。

「わたしも けものです。味方に
なりましょう。」

けものたちと いっしょに 戦いました。

その うち、鳥の 方が 勝ちそうになつて きました。
こうもりは こっそり ぬけ出して、鳥たちの 所に 行き

(新漢字 戦 負 初 勝 味)

(006. jpg)

ました。

「わたしも、飛ぶことが できますから 味方になりましょう。」

つるや きじや はとたちと いっしょに 戦いました。

まもなく なかなおりして 戦いを やめました。鳥たち

は、こうもりの 勝手な やりかたを おこつて、相手に しません。

けものたちの 方に行くと、

「おまえは、あとで 鳥の なかまに なったじゃないか。

ずるい やつだ。そんな やつは きらいだよ。」

そう 言って、なかまに 入れて くれません。

こうもりは、こそこそ にげ出しました。

考えて みると、はずかしくて 昼間

外は 飛べません。木の ほらや 小屋

の のきなどに かくれて いて、夕方

になってから はたはた 飛び回るよ

うに なりました。

○からすは、なぜ からすが いやに なったのでしょうか。

○ひとりぼっちに なった からすは、 どう思っ て いるの
でしょう。

○こうもりは、 なぜ けものと 鳥の 両方に ついたので
しょう。

○こうもりが、 昼 飛ばなく なったのは なぜでしょう。

(新漢字 相間)

(007. jpg)

わたしたちの 国

一 国旗と 国歌

世界中 たいていの 国には、 国旗と 国歌
が あります。

国の 記念日や、 お祝いの 日には、 国旗を
かかげ、 国歌を 歌います。

わたしたちの 国 ブラジルの 国旗は、 美しい 旗です。

緑は ブラジルの 広々と した 山野を 表わし、 黄は 地



下の たからを 表わし、青は 大空を 表わして います。
白い おびには ORDEM E PROGRESSOと 書
いて あります。青い 円の 中の 星は、州と 連邦(ぼう)
都を
表わして います。

この 国旗は、一千八百八十九年十一月十九日に 定めら
れた もので、この 日を「国旗の日」として、毎年 お
祝いを します。

わたしたちが 歌う、ブラジル国歌の ことばは、ジョア
キン||オゾリオ||ズツケ||エストラーダが 作り、曲は、フ
ランシスコ||マノエル||ダ||シルバが 作った ものです。
明るくて、力強い ブラジルの 国歌は、世界でも 美しい
国歌の 一つです。

国旗と 国歌は、国の しるしで、国民が 国を 思う
(新漢字 旗 念 祝 緑 野 表 円 連 定 曲)

(008. jpg)

気持ちを 表わした ものです。

二 地図を見る

夕食後、にいさんはブラジルの地図を広げて、おいし
さんたちが引っこしていったブラジリアをさがして
いました。

「ここだ　ここだ。ずいぶん　遠いなあ。遊びに　行くにも
飛行機で　なければ　だめだ。」

と　言いました。それから、にいさんは　わたしに、地図の
見方を　教えて　くれました。

地図は、まるい　地球の　表面を、平らに　かき表わした
もので、上が　北、下が　南、右が　東、左が　西です。

地図では　茶色が　陸地の　高い　所、こい　茶色が　山、
緑色は　ひくい　所を　表わします。海や　川や　湖など、
水の　ある　所は、青く　表わして　あります。

黒い　線や　赤い　線が　たくさん　ありますが、これは
鉄道や　道路などの　交通路線です。まるは　町の　しるし
です。

地図で　わたしたちの　国を　見ると、東は　海で、北と

西と南は外国に続いています。そして中央が茶
色で北と南が緑色です。黒い線や赤い線は、海
岸の方に多くまるも海岸に近い所ほど多く
（新漢字 食 飛行機 教 球 表面 茶 陸 湖 線
鉄 路 交 外 統 央 海 岸）



(009. jpg)

なっています。

にいらは

「ぼくたちの 国は、世界で 四番目に 大きいんだよ。」
と 言いました。わたしが

「いちばん 大きい 国は どのなの。」

と 言うつと、

「それはソビエト連邦だよ。次がカナダ、中国だ。でも

ソビエト連邦や カナダには、寒くて 人の 住めない

土地が多いんだよ。それに 比べると、ブラジルは気

温が 高くて、どこにでも 人が 住めるのだからね。す

ばらしいだろう。」

(新漢字 比 温)

(010. jpg)

と 言いました。わたしが、

「でも、線や まるは 海岸の 方に 多くて、おくの 方

には 少ないのね。」

と 言うつと、にいさんは、

「そうなんだ。これから おくの 方にも 線や まるが

ふえて いくのだよ。今、ブラジルの 人口は、六千四百

万人ぐらいで、日本などに比べると、土地の広いわり合いに人口が とても 少ないのだ。」
と 言いました。

それから、にいさんは 地図を 見ながら、大きな 町や川について 話して くれました。

三 国の 歩み

ポルトガル王、ドンⅡマヌエルの 言いつけで、ペードロアルバレスⅡカブラルは 十数せきの 船隊を ひきいて、インドに 向かって 航海中でした。

一千五百年四月二十二日、思いがけない所に 陸地を 発見しました。そこに 上陸した カブラルは、島だと 思つて、イリーヤⅡデーⅡベラⅡクルースと 名を 付けました。

カブラルたちは、新しい 陸地の 発見を 喜び合いました。

(新漢字 口 万 歩 船 隊 航 発 喜)

その後 ポルトガル人が 次々と ここに わたって きました。そして、カブラルたちが 島だと 思っ て いたのは、大陸で ある ことが わかりました。そこで、テレーサ デッサンタクルースと 名を 変えました。ここには パパガイオが 多いので、「パパガイオの 地」と よぶ人も ありました。その ころ、ヨーロッパで ねだんの 高かった パウブラジルが、たくさん はえて いたので、「パウブラジルの 国」とも よびました。これが ブラジルと いう 国の 名の 起こりです。

ブラジルを 植民地に した ポルトガル人は、土地を 開き、村や 街を 作りました。また、さとうや 金を ヨーロッパに 送り出しました。

一千八百八年に、ポルトガル王家が ブラジルに 移住しました。ドンジョーン六世は 十三年ほど いて、王子 ドンペードロを 残して 本国に 帰りました。

ブラジルに 住む 人たちは、早くから ブラジルを 独

立国にしたいと 思って いました。一千八百二十二年九月七日、ついに ポルトガルから 独立しました。そして、王子 ドン ペードロが ブラジル最初の 皇帝 ドンIIペードロ一世と なりました。

(新漢字 変起開送家移住世残 帰独最 初)



Dom Pedro I.

(012. jpg)

立国にしたい ジョゼーロニファシオは、一日も 早く、ブラジルを 独

と 思いました。一千八百十九

年、ジョゼーニボニファシオは、
三十六年ぶりで ブラジルに
帰りました。そして、ブラジル
の 独立を のぞむ 国民の
先頭に 立って 働きました。

ドンニペードロ王子が ブラジ
ルに 残ったのも、イピランガ
のおかで 独立を さげんだのも、ジョゼーニボニファシ
オが すすめたからでした。

かれは、自分の ことは、何も 考えませんでした。国
のためには どんな 苦しい ことでも しました。

サントスに ある ジョゼーニボニファシオの はかには、
「わたしは、ただ、わたしの 国と 国民を 愛した。そし
て、その ことだけを わたしの ほまれと する。」

と いう 意味の ことばが きざんで あります。これは
ジョゼーニボニファシオが 言った ことばで、今も 国民
の 心を 強く 打ちます。

五 ベンジャミンⅡコンスタンテ

ニテロイの 町で 子どもたちに、学問を 教えて いる 先生が ありまし

た。一千八百三十六年、この 先生のうちに 男の 子が 生まれました。

名まえを ベンジャミンⅡコンスタンテと 付けました。ベンジャミンは、たいそう かしこくて、十才の 時には、父に 代わって 教える ことが できました。

ベンジャミンが 十三才の 時、父が なくなりました。その上、母も 病気に なって しまいました。そこで、ベンジャミンは 弟や 妹の 世話を しながら、くらしのために はたらかなければ なりませんでした。

ベンジャミンは、こうした 苦しい 生活にも くじけず、一心に 勉強して 軍人になりました。

軍人として ばかりで なく、国の ために 大きな

働きをして、国民から グランデ・ブラジレイロと 言われるようになりました。

ブラジルを りっぱな 国に する ためには、

「国民が 国の きまりを きちんと 守り、進んだ 考えを どしどし 取り入れる ことが 大切だ。」

と、ベンジャミンは 考えました。そして、これを 国民に

(新漢字 代弟妹活軍)

(014. jpg)

教え、自分も 実行しました。

ブラジルの 国旗の 中に ある、

ORDEM E PROGRESSO

と いう ことばも、ベンジャミンが えらんだ ものです。

ベンジャミンは、皇帝(こうてい)(ドンペー

ドロ二世に 重く 用いられて いま

したので、その 恩は わすれません

でした。しかし、皇帝の しあわせよ

りも、国民全体の しあわせを のぞみ、ブラジルを 共和
国に する ため、一生けんめいに 働きました。

一千八百八十九年十一月十五

日、ブラジルは 共和国に な
りました。

ヨーロッパへ 帰る ドン

ペードロ二世を 乗せた 汽船

アラゴアス号は、リオデジ

ヤネイロを 出て いきました。

ベンジャミンは、なみだを 流

しながら、汽船が 見えなく

なるまで 見送りました。

(新漢字 実 用 恩 流)



Benjamin Constant

「花」につくことば

花が さきました。

花は きれいです。

花を さしました。

花に 水を やりました。

花へ はちどりが 飛んで いきます。

花で 首かざりを 作りました。

花の 種を まきました。

花と ちょうは なかよしです。

花も 買いました。

が は を に へ で の と も は、花と いうこ

とばと、その 下の ことばの 関係を 表わして、二つの
ことばを つないで います。

花へ さきました。

花が 種を まきました。

花を 水を やりました。

などは まちがいです。

次の 文の あいて いる 所に、ことばを 入れましよう。

わたしたち□、学校□ 行く とちゅう、パスト□ そば□
道

□ 通りました。白い牛□ 黒い牛□、草□ 食べて いました。

そば□ 子牛□ いました。

(新漢字 首種 関係)

(016. jpg)

手品

高い 木が あります。

その 木の 下で、三ちゃんが 大きな、木ばこを 前に 置いて、手品を やって います。その 前に 子どもたちが 集まって います。

「エヘン、ここに小さい紙ばこがあります。中には何もはいっていません。このはこから白いちようちよを出します。」

三ちゃんは、そのはこを木ばこの上にふせました。そして、

「出る、出る。ちようちよ 出る。」

と言って、紙ばこを上げました。すると、ほんとうに白いちようちよがいて、ひらひら飛んでいきました。それを見ていた子どもたちは、パチパチ手をたたきました。

「エヘン、こんどは黒いちようちよです。」

紙ばこをふせて、それから、

「出る、出る。黒いちようちよ 出る。」

と、三ちゃんは言いました。

三ちゃんがはこを上げると、一ぴきのばったが

(新漢字 置)

ピョンと 飛びました。

「あつ、しまった。黒い ちようちよと 言ったのに ぼつ
たが 出て きた。」

みんなは ふしぎそうな 顔を して、その ぼつたを見
て いました。

「こんどは、ひよこを 出して みせます。」
すると、前に いた 女の 子が、

「ほんとに ひよこが 出て くるの。」
と 聞きました。

「ほんとどうや。」
と 言つて、ニちちゃんは 紙ばこを ふせました。

「出て こん、出て こん、ひよこ 出て こん。」
すると どうぞでしょう。ほんとうに ひよこの 鳴き声が

聞こえて きました。ニちちゃんが 紙ばこを 取りのけると、
ひよこが ニわ ピヨピヨ 鳴いて いました。

「まあ かわいい。」

子どもたちは、木ばこの そばに よって きました。

三ちゃんは、

「エヘン、おしまいに 人間を 出します。」

これを 聞いて、みんなは びっくりしました。なかには
にげようと する 者も ありました。

ところが 木ばこを ひっくり返すと、いさむちちゃんが

(新漢字 間)

(018. jpg 挿絵あり)

出て きたので、みんなは、

「わっ。」

と わらいました。いさむちちゃんは、

木ばこの 下に かくれて いて、

ちようちよや ばったや ひよこを 出して いたのです。

この 文に ある、「その」「この」「それ」というこ

とばは、何を さして いるか 考えて みましよう。

「そして」「すると」「それから」「ところが」という



ことばは、二つの 文をつないで います。これらのこ
とばの 使い方を おぼえましょう。

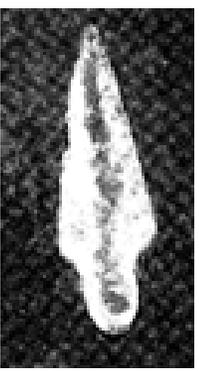
大むかしの 人の くらし

一 インジオの やり

この 間、おとうさんと つりに 行きました。ぼくが
川ばたで みみずを ほって いると、カチツと 音がし
て、石が 出て きました。それは、十五センチメートルぐ
らいの 細長い 石で、両はしがと
がつて いました。おとうさんに 見
せると、

「これは、むかし インジオが 使っ
た 物だろう。」

(新漢字 細)



と 言いました。ぼくが

「何に 使ったの。」

と 聞くと、

「さあ、青木さんなら 知って いるだろう。持って いて 聞いてごらん。」

と 言いました。それから ぼくたちは よい 場所を 見つけて、夕方まで つりを しました。ピアバや カラーを たくさん つって 帰りました。

次の 日、学校から 帰ると、ぼくは 石を 持って、青木の おじさんの うちに 行きました。

おじいさんは、ぼくの うちから 一キロメートルほど おくに 住んで います。ブラジルに 来てからは、ずっと 農業を して いますが、日本では 高校の 先生でした。そして、大むかしの ことや、インジオの 研究を して いるのです。

おじさんの うちの サーラの かべには、インジオの ゆみと やが かざって ありました。たなの 上には、焼

き物の こわれたのや、とがった 石の かけらなどが、たくさん 置いて ありました。ぼくが 石を 出すと、おじさんは 喜んで、

「どれどれ 見せてごらん。これは、むかし インジオが やりに して、けものや 魚を 取った 物だよ。」

(新漢字 農 高 焼)

(020. jpg)

と 教えて くれました。

「それは いつごろの ことなのですか。」

と 聞くと、おじいさんは、

「そうだね。千年ぐらい 前だろう。」

いう 物は、むかしの ことを 知るの

に 大切な 物だから、これからも、見

つけたら 拾って おきなさい。」

と 言って、たなの 上の 物を見せ、

大むかしの 人の くらしや、めずらしい

インジオの 話を 聞かせて くれました。

二 むかしの 人の 暮らし

青木の おじさんは、石の かけらを 手に 取って、

「これは 何だか わかるかね。」

と 言いました。ぼくが

「それも、インジオの 使った 物

ですか。」

と 言うのと、

「いや、これは インジオよりも

もっと もっと 大むかし 住ん

で いた 人の、使った 物だよ。」

(021. jpg)

と 言って、話し 始めました。

人間も、初めは 土の 中に あなを ほって 住んで

いました。しかし、人間は 立って 歩くので、手を 自由

に 使う ことが できます。それで、だんだん けものと

は ちがった 暮らし方を するようになり ました。

「まず、石で いろいろな 道具を 作ったのだね。それから、ゆみと やを 発明した。この とがった 石は、やの 先に つけた 物だ。そして こちらの 石は おのだよ。」

おじいさんは、その 石を 持って 切る まねを しました。

「むかしの 人は、どんな 物を 食べて いたのですか。」
「大むかしは、けものや 鳥の 肉を なまで 食べて いた。その うちに 火を 使う ことを おぼえて、焼いて 食べたのだね。」

「お米なんかは。」

「米などは なかったよ。土を たがやして、物を 作り始めたのは、ずっと 後の ことだよ。それまでは、男は 鳥や けものを 取り、女は 木や 草の 実を 集めるのが 仕事だった。」

「じゃあ、遊んで いるような ものですね。」

「遊ぶどころか、大むかしは 食べる 物が 少なくて、なかなか 取れなかった。それで 食べ物 を さがして、新

(新漢字 由明肉寒)

(022. jpg)

しい 土地へ 新しい 土地へと、移って 行ったのだ
ね。」

こうして、長い 長い 時が すぎ、陸には 草木が し
げり、鳥や けものが 多く なりました。海や 川には、
魚や 貝が ふえて きました。

やがて、人間は、木を くりぬいて 船を 作り、水の
上を 行ったり 来たりするように なりました。この 時
代から、川べや 海べに 柱の ある 家を 建てて 住み、
魚や 貝を たくさん 食べるように なりました。

おじいさんは、

「貝は、その ころの おもな 食べ物だったらしい。今で
も、その 食べがらが 山のよ
うに なって いる 所が あ
って、これを 貝づかど ipp

ている。」

と教えて くれました。

「その ころは、物を にて 食
べたんですか。」

と 聞くと、おじさんは、

「そうだよ。土を ねって、焼き
物を 作るようになってい

(新漢字 船柱建)

(023. jpg)

たからね。ほら、これは 焼き物の かけらだよ。」
と 言つて、小さな かけらを 指さしました。

「まだ、かねで 作った 物は なかったのですか。」

「それは ずっと あとだね。こうして いる うちに、人
間は だんだん かしこく なって、銅や

鉄で、よい 道具を 作るようになって いった

のだよ。しかし、今でも インジオの中

には、大むかし そのままの くらしを

している者もあるのだよ。」

おじいさんは、こんな話をしてくれませんでした。

三 ブラジルの インジオ

「おじいさんは、インジオは大むかしからブラジルにいたのですか。」

「いや、ずっとずっと大むかしにはいなかっただよ。」

「どこから来たのですか。」

「アジアから来たといわれて、いるんだがね。」

今から二万年ぐらい前、アメリカとアジアは、北の方が続いていました。人間は、アジアからアメリカにわたり、何千年もかかって、南へ南へと移っていききました。こうしてブラジルにも、人間が住むようにな

ったのです。その後、アメリカとアジアとの間の続いて
いた所は、深い海になってしまいました。

アジアとヨーロッパは続いていたので、人間は行
ったり来たりしました。それで、暮らし方もだんだん
進みました。

アメリカは他の大陸とはなれていたので、そこに
住む人間の暮らし方は、いつまでも進みませんでした。
この人たちがインジオです。

「ブラジルが発見されたころ、インジオはたくさん
いたのですか。」

「ああ、三百万人ぐらいいたそうだよ。だんだんへって、
今ではその半分もいないそうだよ。」

ブラジルのインジオは、ツピー族・タプイア族・アルア
ツケ族・カライーバ族の四つに、大きく分けることが
できます。ツピー族やアルアツケ

族は、その暮らし方も進んで

いて、布をおることも知って

います。また、ミーリヨや マンジ
オカなども 植えて います。

しかし、今でも 石の 道具を

使い、ゆみと やで 烏や けも

のを とり、草木の 実を 食べて いる インジオも

(新漢字 深 他 布)

(025. jpg)

います。

ブラジルには、インジオを 守り、進んだ 暮らし方を

教える 役所が あります。

「月の 明るい ばんに、インジオたちが、たき火の 回りで

おどりを おどって いるのを 見た ことが あるよ。」

「ぼくも、一度 その おどりを 見たいなあ。」

おじさんの 話を 聞いて いる うちに、遠い 森の

中に 住む インジオに、会って みたいと 思いました。

目の 病気

秋山「先生、ちよつと 来て ください。」

先生「どうしたんだね、秋山君。」

秋山「中村君が、目が いたいと 言って ないて いるんです」

先生「中村君、どれ、見せてごらん………………。だいぶ赤く なつて いるな。どうも トラコーマらしい。こすつては いけないよ。すぐ お医者さんに 見て もらいなさい。」

秋山「先生、トラコーマと いうのは どんな 病気です

(026. jpg)

か。」

先生「初めは 目が かゆく なつて、まぶたの うらがわにぶつぶつが できる。それが ひどく なると、ほかの 病気を 起こして 目が 見えなく なる。目の 病気の 中で、いちばん うつりやすくて、こ

わい 病気だよ。」

中村「どんな ときに うつるのですか。」

先生「トラコーマに かかっている 人が、手で 目を
こするだろう。その 手に さわったり、その 手で
持った 物に、ほかの 人が さわったりすると う
つるのだよ。」

秋山「それでは、ハンカチを かりるのは よく ない こ
とですね。」

先生「ああ、それは あぶないね。家族の 中に、トラコー
マに かかっている 者が ひとり いて、同じ
タオルを みんなで 使ったので、うち中の 者が
トラコーマに かかったと いう 話がある。」

中村「トラコーマは なおらないのですか。」

先生「早く 気が 付いて すぐ 手当てを すれば なお
るが こじらせるど なおりにくい。」

秋山「目には、その ほかに どのような 病気が ありますか。」

先生「トラコーマの ほかに、けつまくえんと いうのも

ある。」

中村「それは 目が どう なるのですか。」

先生「はじめ 目が かゆく なり、いたみが ひどく な
って、目が まっかになる。明るい 所に 出ると
まぶしくて 目やにや なみだが 出て、目が あけ
られなく なって しまう。」

秋山「やっぱり うつるのですか。」

先生「これも、トラコーマと 同じように うつるのだよ。

中村「手は、いつも 清けつに して おかないと いけま
せんね。」

先生「そうだ。目に 見えない ばいきんが、手から 目や
口に はいるからね。」

秋山「目に ごみが はいって、なかなか 取れなくて こ
まった ことが あります。」

先生「そんな ときは、こすらないで きれいな 水で あ
らう ことだね。」

秋山「ぼく、毎朝 顔を あらう とき、水の 中で 目を
パチパチ やって います。」

先生「それは いい ことだね。目の 病気を ふせぐには
次の ことが 大切だ。」

- いつも、自分の ハンカチや タオルを 使う こと。
- つめを 短く 切って、清けつに して おく こと。

(新漢字 清 短)

(028. jpg)

- 石けんで 手を あらう こと。

- 手で 目を こすらない こと。

- 目が かゆく なったり、
赤く なったりしたら、

すぐ、お医者さんに 見
てもらおう こと。

こう いう ことに、注

意するんだね。」

秋山 「はい、わかりました。」

森の 友だち(げき)

出て くる 人

りす (女) ねずみ (男)

からす (男) さる (男)

うさぎ (女) かりうど (男)

所

第一の 場面 うさぎの家

きょうは、うさぎの たんじょう日で からす・り

す・ねずみ・さるが お客に よばれて いる。

からすと りすは 来て いるが、ねずみと さる

は、まだ 来て いない。うさぎも いない。

からす ああ、来た 来た。ねずみさんが 来たよ。

りす ねずみさん おそかったわね。

ねずみは、しつぽに お祝いのかごをむすんで、出てくる。

からす おいしそうだね。こんなに たくさんでは 重かったろう。

ねずみ やれやれ、間に 合って よかった。うさぎさんと さるさんは。

りす さつき、森の 中の 坂道で うさぎさんに 会ったのよ。

きつねさんの うちに 注文して おいた ごちそうを 取りに 行くのですって。すぐ 帰ると 言うて いたのに、

どうしたのでしょうか。

ねずみ そう。そんなに ごちそうしなくても いいのに。さるさんも ずいぶん おそいね。

からす そうだね。時間は 知って いる はずだがなあ。また、い

つものように 道草を 食って いるんだよ。

りす でも…。何か あったのではないかしら。このごろ
森の

中の 道は とても あぶないそうよ。

からす そうか。じゃあ、ちよつと 見て こよう。

ねずみ からすくんは、飛行機だから しっかり たのむよ。

からすは 右手へ かけて いく。

りす 気を 付けてね。

りすと ねずみは、心配そうに へやの 中を 歩き回
る。(音楽)

(新漢字 坂 文 食)

(030. jpg)

そこへ さるが いきを 切って かけこんで くる。

さる ああ よかった。もう 少しで かりうどに つかま
る ところ

ろだった。

ねずみ えっ。かりうどだって。どこに いるの。

さる 森の 中で 見つかってね。どんどん 追いかけて
くる

ものだから、あっち こっち にげ回って やつと

助かつ

たんだよ。

りす あぶなかつたわね。でも、木のぼりが じょうずだからよ

かつたのね。

ねずみ かりうどは どっちへ 行った。うさぎさん だいじょうぶ

かな。

さる うさぎさんが どうかしたの。

りす きつねさんの うちへ、ごちそうを 受け取りに行つて、

まだ 帰つて こないのよ。今、からすさんが 見に行つて いるんです。

からすの 声が 聞こえて くる。

からす カアカア、たいへんだ、たいへんだ。

ねずみ あつ。からす君が もどつて きた。

からすが 右手から かけて くる。

りす からすさん、どうしたの。

からす (はねを ふるわせながら) うさぎさんがね。かりうど

はった あみに かかって しまったんだよ。

さる それは たいへんだ。かりうどが 来たら 連れて
いかれ

て しまう。

(新漢字 連)

(031. jpeg)

りす どうしましょう。こうしては いられないわ。早く
助けに

行かなくては。

みんなは その へんを 歩き回る。

ねずみ うん、そうだ。からす君、ぼくを 君の せなかに
乗せて

って くないか。ぼくなら あみを かみ切って、
きつと

助ける ことが できるよ。

さる そうだ。それが いい。すぐ 行って くれ。

りす からすさん わたしも 乗せてってよ。

からす だめため、ふたりなんか 乗せられないよ。

ねずみ りすさんには るす番を たのむよ。すぐ 助けて

くるか

らね。

さる ぼくも 行くよ。ぼくは 近道を通って いくよ。

からす じゃあ、ねずみ君 行こう。しっかり つかまってるん

だよ。

からすと ねずみは、右手にはいる。さるも 続く。

りす 心配だわ。かりうどが 来ない うちに 助かれば
いいけ

ど…。

第二の 場面 森の中

うさぎに からまって いる あみを、ねずみが
かみ切って

いる。からすは、そばの 木の えだに 止まって
見はりを

している。

からす あっ。かりうどが 見える。こっちへ やって
くる。ねず

み君、早く たのむよ。

(032. jpeg 挿絵あり)

ねずみ もう 少し、もう 少し。

からす 早く 早く。

そこへ さるが やって くる。 からすを 見つける。

さる からす君、うさぎさんは どこに いるの。

からす ほら、その 草むらだよ。 もう 少しで あみが 切れる

んだけど、かりうどが そこまで 来て いるんだ。

さるは びっくりして、からすの 指さした 方を見
る。

さる たいへん たいへん。ねずみさん 早く 早く。

うさぎ みなさん、わたしに かまわず にげて ください。
みなさん

んまで つかまったら たいへんです。

そこへ かりうどが ゆみや を持って 出て くる。

かりうど さあ、わたしの あみに どんな え物が かかっ
たかな。

ねずみ・からす・さるは、草や 木の かげ
に かくれる。

かりうど しめた、うさぎだ。これは ありがたい。

うさぎに 手を かけようと して

かりうど や、や、こんなに あみを かじって

いる。もう 少しで、にげられると

ころ だった。

木の実が 飛んで きて、かりうどの 頭に

コツンと 当たる。

かりうど だれだ、こんな 物を 投げたのは……。

あつ。さっきの さるだな。ようし、こ

んどこそ にがさないぞ。

(新漢字 頭 投)

(033. jpg)

さるは、木の 実を 投げながら、えだから えだに 飛
びう

つって いく。かりうどは、ゆみに やを つがえて さる
を

追いかけて　いく。ねずみが出てきて、また　あみを
かじ

り、うさぎを　助ける。

うさぎ　ねずみさん、ありがとう。おかげで　助かったわ。

ねずみ　さるさんが　手つだつて　くれたからだよ。

からすが　木の　かげから　出て　くる。

からす　あつ。かりうどが　引返して　きた。さる君は　う
まく

にげたらしい。さあ、早く　にげよう。

からすは、木の　後ろに　はいる。ねずみは、うさぎの
手を

引いて　左手に　にげる。うさぎは　びっこを　ひいて　い
る。

少し　行くと、りすが　やって　くる。

りす　うさぎさん、よかったわね。心配で　たまらないので
見に

来たんです。けがでも　して　いたらと　思つて、く
すりを

持つて　きたのよ。

ねずみ　それは　ありがとう。うさぎさんが　足に　けがを
して

いるんです。

りす では、早く これを つけましょう。

くすりを つけて いると からすが 飛んで くる。

からす おや りすさん、むかえに 来て くれたの。さるさん
んは

うまく にげたよ。さあ 急いで 帰ろう。

うさぎ おそく なって すみません。さあ いきましょう。

うさぎ・ねずみ・りす・からすは 連れだって 左手に
はい

る。(明るい 音楽で まく)

(新漢字 後)

(034. ja g)

かん字に ついて

一 かん字の 始まり

にっぽん(2)で 習ったように、絵が もとに なって

できた かん字が たくさん あります。その かん字を

組み合わせ、別の字にしたものもあります。

木と 木を ならべたのが 林、

人と 木を ならべたのが 休む、

日と 月を ならべると 明るい、

日と 青を ならべると 晴れ、

山と 石と 上下に 重なると 岩になります。

二 部分の 名まえ

かん字の それぞれの 部分には、名まえが あります。

時や 村のように、よこに ならんだ 二つの うち、左

の 部分を 「へん」、右の 部分を 「つくり」と います。

時は 「ひへん」で、村は 「きへん」です。

秋は 「のぎへん」、休むは 「にんべん」、

海は 「さんずい」、絵は 「いとへん」です。

二つの 字が、上下に 重なって いる ときには、上の 部分を 「かんむり」と います。

字・家は「うかんむり」、

雲・雪は「あめかんむり」、

草・花・葉は「くさかんむり」です。

また 間や 聞などの 字には、門という 字が あります。これを「もんがまえ」といい、・の 外がわのかこいを、「くにがまえ」といいます。

同じ「へん」や「かんむり」の 付く 字を 集めて みましょう。

三 音読みと くん読み

かん字は、むかし 中国から 日本に わたって きた ものです。

中国の 読み方が 「音読み」で、日本の ことばを 当てて 読んだのが 「くん読み」です。

たとえば、「東」という 字を、「東京」の「とう」と読む ときは「音読み」で、「東の 空」の「ひが

し」と読むときは「くん読み」です。

「大小」 「だいしょう」 「大きい 小さい」

「男女」 「だんじょ」 「おとこ おんな」

「馬車」 「ばしゃ」 「うま くるま」

「音読み」「くん読み」で、いろいろの かん字を 調べて みましょう。

(新漢字 調)

(036. jpg)

四 かん字の 形

かん字は、いろいろな 形を しています。

四角に なって いる 字には、回・田・国・

図などが あります。

たての 長四角には、日・目・自・月、

よこの 長四角には、皿・血・西、

上・久・下などは 三角に なります。

ひしがたに なって いる 字は、小・今・冬で、



天・足・元などは、台形をして います。

その ほか、子・女・手・赤などは 円です。

五 かん字の 筆順

かん字を 書く ときは、筆順が きまっています。

一 たての 線は、みんな 上から 下へ 引きます。

二 よこの 線は、みんな 左から 右へ 引きます。

三 たての 線が ならんで いる 字は、左から 順に 書きます。

妹	妹	妹	妹	妹	妹	妹	妹
く	く	く	く	く	く	く	く
女	女	女	女	女	女	女	女
女	女	女	女	女	女	女	女
女	女	女	女	女	女	女	女
奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸
奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸
奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸
奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸	奸
申	申	申	申	申	申	申	申
申	申	申	申	申	申	申	申
申	申	申	申	申	申	申	申
申	申	申	申	申	申	申	申
東	東	東	東	東	東	東	東
東	東	東	東	東	東	東	東
東	東	東	東	東	東	東	東
東	東	東	東	東	東	東	東
空	空	空	空	空	空	空	空
空	空	空	空	空	空	空	空
空	空	空	空	空	空	空	空
空	空	空	空	空	空	空	空
門	門	門	門	門	門	門	門
門	門	門	門	門	門	門	門
門	門	門	門	門	門	門	門
門	門	門	門	門	門	門	門

四 よこの 線が ならんで いる 字は、上から 順に 書きます。

五 「へん」と「つくり」のある 字は、「へん」を

先に、「つくり」を あとに 書きます。

(新漢字 筆)

(037. jpg 漢字の書き方の挿絵あり)

かん字の 正しい 筆順を おぼえて、
まちがえないよう
に 書きましょう。

あの 町 この 町

あの 町 この 町、 日が くれる 日が くれる。

今 来た この 道、 帰りやんせ 帰りやんせ。

おうちが だんだん、 遠く なる 遠く なる。

今 来た この 道、 帰りやんせ 帰りやんせ。

お空に タベの、 星が 出る 星が 出る。

今 来た この 道、 帰りやんせ 帰りやんせ。

(野口雨情詩)

(新漢字 正)

リオデジャネイロ

ブラジルが 発見されてから、三年後の ことでした。海岸を 調べて いた ポルトガル人は、ある 日、大きな川口を 見つけました。それは、一月の ことだったので、リオデジャネイロと いう 名を つけました。後になつて、そこは 川では なくて、入り海で ある ことがわかりました。

その後、ここに、だんだん 人が 集まって、町に なりました。これが、リオデジャネイロの 始まりです。

りっぱな 都会に なったのは、ブラジルの 首府になつてからです。

リオデジャネイロでは、リオブランコ大通りを 中心として、ドンペードロ二世駅から、グロリア海岸までの 区いきが セントロです。ここには、役所や ゆうびん局、大きな 会社、商店が 集まっています。また、古い

建物や お寺など
も あります。広
場には、国に 手
がらを たてた
人の 銅ぞうが
あります。

(新漢字 首府 駅 区局 社 商店 寺)

(039. jpg 挿絵あり)

コパカバナ海岸は 有名な 海水浴場で、いつも きれい
な 海水着の 人で いっぱいです。海岸に そって 高い
建物が 立ちならんで いるのは、とても みごとです。

ボン||デ||ア||ス||カルは、三百

九十メートルの 岩山で、ここへは
ケーブルカーで のぼります。ちよ
う上の 見はらし台からは、広い

外海まで 見わたす ことが

ます。おみやげ店も あって、
いちようのはねで 作った
ざり物を 売って います。



キンタールダールボアールビスタには、

動物園と 博物館が あります。

動物園には、さいや きりんなど

も います。また、めずらしい 鳥

類を たくさん 集めて いる こ

とで、世界中に 知られて います。

その 近くに インジオ博物館や

マラカナン競技場が あります。こ

の 競技場は、世界で いちばん
大きく、十五万の 見物人を 入れ
ることが できます。

(新漢字 有名 浴 博 館 鳥 類)

(040. jpg)

植物園は、ドンIIジョン六世の
作った もので、七千種もの 植物
が 集められて います。わざわざ
インドから 取りよせた めずらし
い 木も あって、南米一と いわ
れて います。

コルコバードは、高さ 七百メー
トルあまりの 岩山で、ちよう上に
両手を 広げた キリストの ぞうが 立って います。

この キリストの ぞうは、世界で いちばん 高く、台の
高さを 入れると 三十八メートルも あります。ここから
ながめる グアナバラわんの け

しきは、まるで 絵のようです。

グアナバラわんには、ゴベルナ
ドール島や パクタ島など 大小
百十三の 島が あります。

リオデジャネイロは、世界
で 最も 美しい 港の 一つと
いわれ、方々の 国から 大ぜい
の 人々が 遊びに 来ます。

(新漢字 最 港)

(041. jpg)

こん虫の 話

一 ブラジルの ちょう

ちょうは 世界中 どの 国にも
います。その 種類は、二方以上も あ
ると いわれて います。

ブラジルは、ちようの 多い 国、美しい ちようの いる 国として 有名です。

ちようは 暑い 所が すきで、とくに、アマゾン地方や マットーグロソ州などに たくさん います。高い 木や 川の すな地に、ちようが 集まって いるのは、まるで きれいな 布を 広げたようです。それが 一度に まい上がる 様子は、何とも いえない 美しさです。

ベレンの 近くで、ある 人が わずか 一時間に、七百 種もの ちようを 集めた ことが あります。それから 考えても、ブラジルに ちようが どんなに 多いかという ことが わかります。

ちようの 中で、いちばん 大きいのは あげはちようで、いちばん 小さいのは しじみちようです。はねに もんのあるのを じゃのめちよう、まだらの あるのを まだらちようとい います。また、はねの ふちが ぎぎぎぎにな っているのは たてはちようです。



(042. jpeg)

あの 美しい 色や もようは、ちょうが おしゃれを
しているのでしょうか。いいえ、あれは 自分の 身を
守る 役目を しているのです。

ちょうは、はねの 色を 草木の 葉や みきの 色に
似せて、鳥や けものの 目を ごまかします。また よく
目立つ 赤や 青の はねの 色で、てきを こわがらせて
近よらせまいと します。

ブラジルには、パピリオ・モルフオ・アグリアなどと
い、大きくて 目の さめるほど 美しい ちょうが いま
す。これらの ちょうの はねを 利用した かざり物が
いろいろ あります。

ブラジルの ちょうで めずらしいのは、カリコーレや

エリコニアです。カリコーレのはねには、88と いう 数字の もようが あります。エリコニアは、からだの 中に くさくて にがい しるを 持って いるので、鳥や けものも この ちょうは 取って 食べません。ところが おもしろい ことに、くさくて にがい しるは 持たないで

(新漢字 身似利)

(043. j p g 左 p g 横書き。)

はねの もようだけ エリコニアの まねを した ちょうが あらわれました。それで、エリコニアは すっかり 有名に なりました。

この ほか、ブラジルには まだ 名まえの ない ちょうが たくさん います。

ちょうを 集めて ひょう本を 作りましょう。

2 こん虫さい集の 道具

さい集には、虫とりあみ・三

角紙・毒びんなどが あります。

虫とり あみ

ほちゅうあみとも います。

飛んで いる 虫や 止まって

いる 虫を とるのに 使いま

す。

(新漢字 集 毒)

(044. jpg 横書き)

三角紙 ちようなどを ころして、持っ

て 帰るのに 使います。

ろう紙を 左の 図のように 折って

作ります。大形・中形・小形の 三種

類を 作って おくと 便利です。

毒びん 底に、ベンジンに ひたした

綿をつめて おきます。

つかまえた 虫は、この 中に入
れて ころします。毒びんは あきびん
などを 利用するのが いいでしょう。

3 こん虫ひょう本の 作り方

毒びんで ころした こん虫を、そのままに して おく
と、足や 首が 落ちやすいので、アルコールに 2時間ぐ
らい つけてから、ひょう本に します。

ばったや きりぎりすの はらは くさりやすく 色が
変わりやすいので、はらわたを 取り出し、綿を つめて
かわかします。

かぶとむしの なかまは、板の 上で 形を ととのえ、
ピンで 止め、十日ほど 日かげで かわかします。

ちようなどは、てんし板で はねの 形を ととのえ、日
かげで よく かわかします。

(新漢字 折形種 便底綿板)

てんし板の 使い方

①てんし板に テープを ピンで とめる。②虫に さした はりを みぞに たてる。③はねを テープで おさえる。

④えつきばりで 形を ととのえ、テープで とめる。⑤テープで とめたまま、 日かけに おく。

4 ちようの りんぷんを 転写する しかた

ちようの はねの りんぷんを 別の

紙に 写し取る やり方です。

1 4まいの はねを、付け根から 切り
はなします。

2 白い 紙を、はねより 少し 大きく
切って、水で しめし、なまがわきの

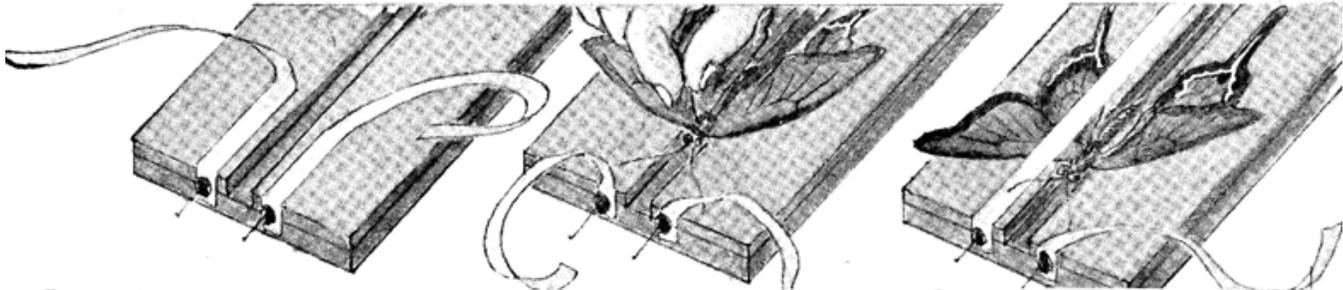
とき、うすい のりをつけ、その
上にはねを 置きます。

3 前と同じように して、のりをつ

けた紙をはねの上にかぶせ、

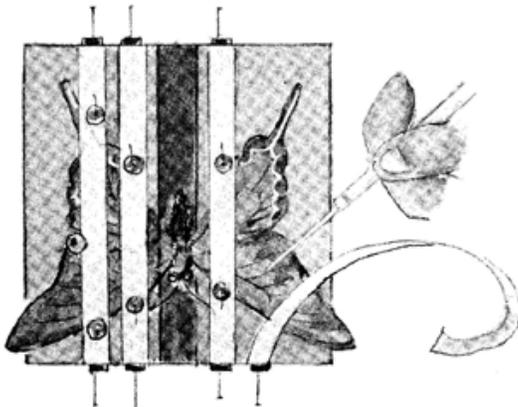
(新漢字 転写)

てんし板の 使い方



① てんし板に テープを ピンで とめる。② 虫に さした はりを みぞに たてる。③ はねを テープで おさえる。

88



④ えつきばりて 形を ととのえ、 テープで とめる。



⑤ テープで とめたまま、 日かげに おく。

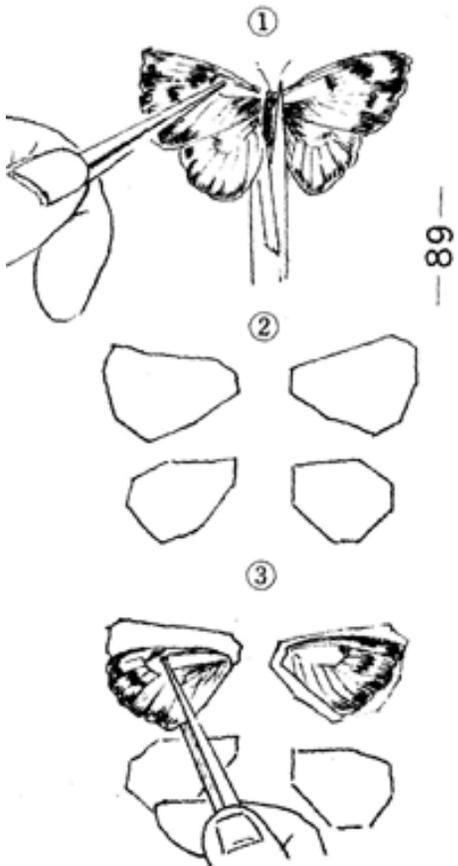
(046. jpg 挿絵あり。右pg横書き)

はり合わせて かわかします。

アイロンを かけると、早く かわ
きます。

4 かわいたら、はさみで はねの きわ
を 切り取ります。そして、2まいの
紙を はがすと、はね そっくりの
りんぷんが ついて います。

これを 台紙に はって、からだを
書き入ると、美しい ちょうの り
んぷん転写が できます。



五 こん虫

て 天気の良い 日曜日に、池田さんは、こん虫を さい集し

に、きました。そして、学校で 理科の ときに 習った とおり

ない ひょう本を 作り始めました。調べて いると、名の わから

虫が あったので、にいさんに たずねました。

教え にいさんは こん虫図かんを 持って きて、虫の 名を

ました。そして こん虫の ことを いろいろ 話しました。

に ちょうや はちのように、からだか 頭と むねと はらと

ん虫 分かれて いて、足が六本、はねが 四まい ある 虫は こ

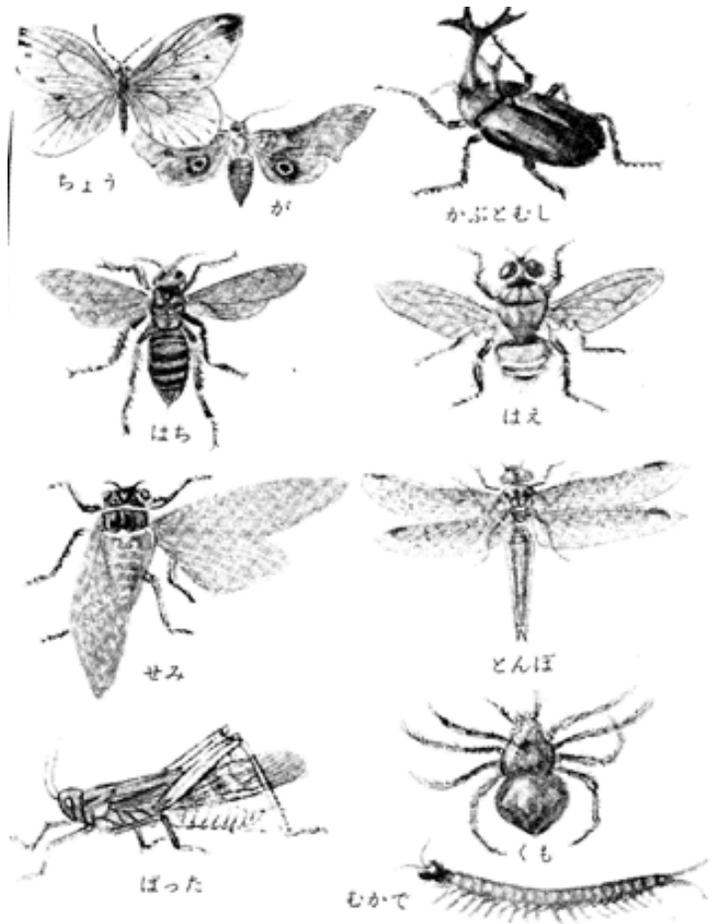
です。

ま、 こん虫は、ちょうど がの なかま、かぶとむしの なか

(新漢字 理科)

はちの なかま、はえの なかま、せみの なかま、とんぼの
な

かま、ばったの なかまなど、多くの 種類に 分けられて
いま
す。



「にいさん、くもは

何の なかま。」

「くもか、あれは

足が 八本あるか

ら こん虫では

ないんだよ。くも・

だに・むかでなど

は、他の種類

だ。」

と にいさんは 言いました。

「ありや のみなんか こん虫では ないんでしょう。」

「いや、こん虫だよ。」

「でも、はねが ないわ。」

「はねは 使わないから なくなつて しまつたが、やはり
こん

まで 虫なんだ。足が 六本 あるだろう。ありは はちの なか

のみは、のみだけで なかまを 作つて いるんだよ。」

池田さんは、のみが こん虫だと 聞いて びっくりしまし
た。

形が こん虫は、生まれてから 死ぬまでに、四たび からだの

なり 変化します。生まれた 時は たまごです。次に よう虫に

ます。よう虫は、草木の しるを すったり、葉を 食べて
大き

(新漢字 変化)

く なります。 その 次に さなぎに なります。 さなぎ
は、何

も 食 べ 不 い で ね む っ た よ う に じ っ と し て い ま す。 そ
し て

最 後 に、 ち ょ う や は ち の よ う な 成 虫 に な る の で す。

人 に き ら わ れ る 青 虫 も、 き れ い な ち ょ う の よ う 虫 な
の で す。



池田さんの ひょう本の 中 に、 かまきりが ありま した。

「かまきりは、 とら ない 方 が い い ね。」

「な ぜ な の。」

「虫 に は 益 虫 と 害 虫 と が あ っ て、 かまきり は、 益 虫 な ん
だ よ。」

と に い さ ん が 答 え て く れ ま した。

し たい て い の 虫 は 害 虫 で、 人 間 に 都 合 の 悪 い こ と を

ます。コーヒーの 実につく ブロッカや トラツサ、綿を
い

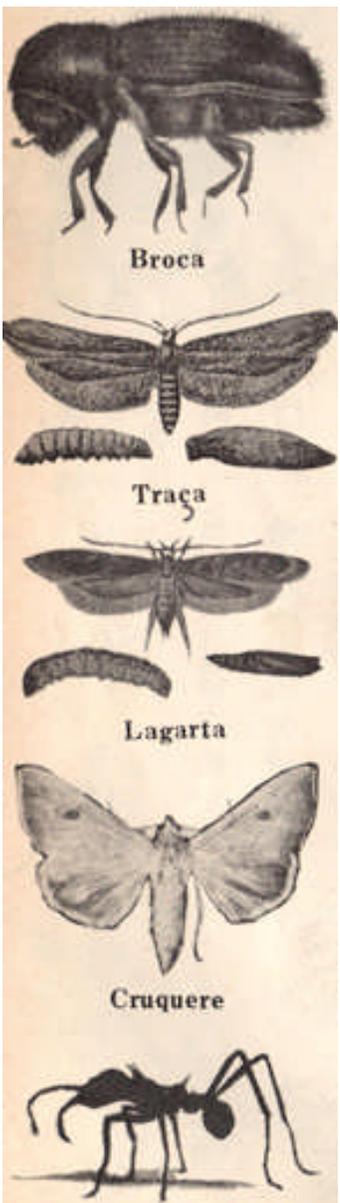
たべる ラガルタや クルケレー、野菜や 果実を あらす
サウ

り・ バなどは みな 害虫です。ところが ウガンダばち・かまき

り・ とんぼなどは、害虫を 取って 食べるので 益虫です。みつ
ばち

す。 や かいこなどは、人間の 役に たつので これも 益虫で

(新漢字 成 益 害 答 都合 悪 菜 果)



かじ屋さんと ろば

ある 日、かじ屋さんが、むすこと ふたりで

ろばを 売りに 出かけました。

いくらも 行かない うちに、村の むすめた

ちに 会いました。

ひとりの むすめが わらいだしました。

「うふふ おほほ。」

「何が おかしいの。」

「だって おかしいわ。ろばを ただ 歩かせて。だれか
乗った

ら いいのに。」

「ほんとに そうだわ。」

かじ屋さんは、それを 聞きつけて 言いました。

「なるほど そうだ。もつたいない。おまえが 乗ったらい
い。」

むすこは ろばに 乗りました。

しばらく 行くと、道ばたに 年よりたちが

集まって 何か 話して いました。

かじ屋さんたちが 近づくと、年よりたちが 言いました。

「あれを 見るが いい。近ごろの わかい 者は、年よりを 少しも いたわらない。」

「何と いう おうちやく者だろう。」

かじ屋さんは それを 聞いて、

(050. jpg)

「なるほど そうだ。わたしが 乗ろう。」

むすこを ろばから おりさせて、自分が ろばに 乗りまし
た。

少し 行くと、向こうから おかあさんと

子どもが 歩いて きました。おかあさんが

立ち止まって 言いました。

「まあ、ずるい 人だ こと。むすこさんも

乗せて あげたら いいのに。」

かじ屋さんは、さっそく むすこに 言いました。

「なるほど そうだ。さあ、おまえも お乗り。」
ろぼの せなかに、ふたりが 乗って 出かけました。

た。
向こうに 町が 見え、町の 人たちが 歩いて きまし

「かわいそうに、あんな 小さな ろぼに ふたりも 乗っ
て。」

「ひどい 人たちですね。」



かじ屋さんは それを 聞くと、

「なるほど なるほど、たしかに

かわいそうだ。ろぼに 少し

らくを させて やろう。」

と 言って、ろぼを かついで

いくことにしました。ろばの 四本の 足を しぼり、ぼ
うに
くくりつけて、よいしょ よいしょと、ふたりで かついで
いき
ました。ろばは さかさに つるされて、苦しそうに 首を
ふら
ふらさせて いました。

(051. jpeg)

ろばを かついで、ふたりは 町はずれまで 行きました。
そこ
に 大きな 川が 流れて いました。

ぜ
かじ屋さん親子が、ろばを かついで 通るのを見て、大
いの人 が めずらしがって、わいわい 言いながら ついて
き
ました。ろばは しきりに もがき
ました。

ちようど 橋の 上まで 来ると、
ろばが あばれたので なわが ぶ
つつり 切れました。ろばは とし

んと落ちて、あつと いう 間に
川に ころがりこんで しまいまし
た。

音 楽 会

一 楽器の いろいろ

いろいろの 楽器を まとめて み
ると、次の 四種類に なります。

1 げん楽器

はって ある げんを こすったり、
はじいたり、たたいたりして、音を

出す 楽器です。こするのは バイオ
リン・ビオラ・チェロ・コントラバス、
はじくのは マンドリン・ギター・ハ

ープ、日本のこと・しゃみせん、た

(新漢字 親橋 器)

(052. jpg)

たぐのは ピアノです。



くだに いきを ふきこみ、中の
空気を しん動させて 音を 出すよ
うに した ものが かん楽器です。
フルート・ピコロのような よこぶえ、
オーボエ・ファゴット・クラリネット
のような たてぶえ、ホルン・トラン
ペット・トロンボーン・チューバなど
の らっぱ類が この なかまです。

3 リード楽器

空気を ふきかける ところに あり
る リードの しん動で 音を 出す
ように した ものです。ハーモニカ
オルガン・アコーディオンなどが、こ
の なかまです。

この 組の オルガンや 1の 組
の ピアノのように けんばんの
る ものを けんばん楽器とも

ます。

4 打楽器

たたいて 音を出すもの。大だいこ・小小だいこ・ティンバニ・タンプリン・カスタネット・木きん・鉄きん

(新漢字 空)

(053. jpg)

シンバル・トライアングルなどが、このなかまです。

楽器は それぞれ 特有の 音を

出すので、一つの楽器を どくそうしたり、オーケストラのように、いろいろ

るな 楽器を 組み合わせ、指揮(しき)者の

手の 動かしかたに したがって 合

そうしたりする ことも あります。

二 音楽会

日曜日の朝、おばさんが 来ました。

おばさんは ピアノの 先生です。わたしも おばさんにつ
いて、ピアノを 習って います。

「はるえさん、音楽会に 連れて 行って あげましょう。」
「どうへ。」

「テアトロームニシパルよ。」

わたしは、大喜びで いっしょに 行きました。わたしたち
が

中には いった ときは、もう たくさんの人 が 来て い
まし

た。わたしぐらいの 子ども、大ぜい いました。みんな こ
し

かけて、しずかに 始まるのを 待って いました。しばらく
す

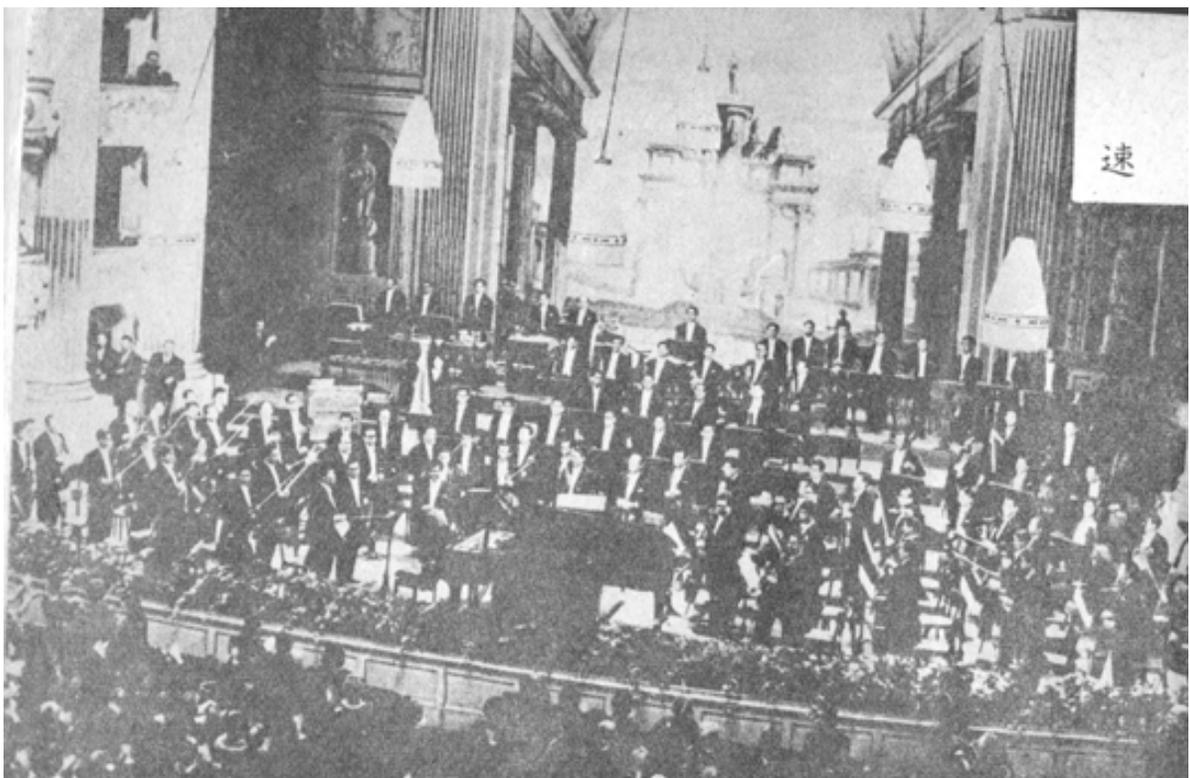
(新漢字 特 待)

(054. jpg)

ると、ベルが 鳴って まくが あきました。

ぶ台には、正面の中央に ひくい 台が あつて、その
よこに グランドピアノが 置いて ありました。後には、
前に ふ 面台を 置いて、バイオリン・チェロ・フルート・ク
ラリネット・トランペット・シンバルなどを 持った 人が、
全部で 八十人ぐ らいも いました。そこへ、指揮ほうを
持った 男の 人と、ま っ白な 服を 着た 女の 人が、出
て きました。すると、みんな 一度に 手を たたきまし
た。ふたりは 客席に 向かつて

おじぎを しました。



「あの 男の 人が 指揮者よ。」

「女の 人は ピアニストね。」

客席の 電燈が 消えて、あたりが うす暗く なる と えんそ

うが 始まりました。指揮者は えん
そうする 人たちに 向かって、おど
りを して いるように、両手を 動
かして いました。よく 見ると、指
揮者の 手の 動かし方で、全部の
人が えんそうしたり、止まったり
しました。

ときには、ピアノだけに なったり、
オーケストラだけに なったりしまし
た。高く ひくく、強く 弱く、速く
おそく、楽器の 音が ひびいて き
ます。

(新漢字 服 席 電 燈 消 暗)

聞いて いる 人たちは、せき 一つ しませんでした。いつの

間にか 時間が すぎて、えんそうが 終わりました。

うっとりとして 聞いて いた 人たちは、ゆめから さめた

ように、いっせいに 手を たたきました。まくが しまつても

また はく手が つづいて いました。すると、また まくが
あ

いて 指揮（しき）者と ピアニストが 出て きて おじぎを しました。

「おばさん よかったわね。」

「ピアニストは じょうずだったわね。オーケストラの ばん
そう

も すばらしかったわ。」

次の えんそうが 始まるまで わたしたちは ろうかに
出て

休みました。

三 カルロス・ゴメス

カルロス・ゴメスは、一千八百三十六年、カンピーナスに生まれました。

父も 兄も 音楽家でした。

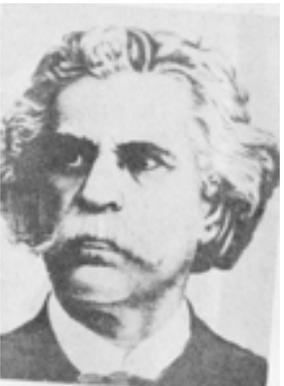
カルロスは、小さい 時から たいそう 音

樂が すきでした。青年に なってから 音楽を 勉強する
ため

に、リオ・デ・ジャネイロに 行き、それから イタリアにも 行
きました。

一千八百七十年、イタリアの スカラゲキ場で、オペラ グアラ
ニーが 初めて 発表されました。その とき 集まった 三千人
もの 人々は、グアラニーの すばらしさに 感心しました。

(新漢字 手 兄)



この オペラは、カルロスが ブラジルの 小説 グアラニーを
作曲した ものでした。

こうして、カルロスは イタリアで たいそう 有名に なりま
した。それから カルロスは、ふオスカ、オリエスクラボなど 美
しい オペラを たくさん 作曲して、世界に その 名を 知ら
れました。

カルロスは、長い 間 ヨーロッパで くらしましたが、ブラジ
ルの ことは 決して わすれませんでした。ブラジルに 帰って
きては、自分の 作曲した オペラを 発表しました。

一千八百九十六年、いつまでも、ブラジルの 音楽に 力を つ
くす つもりで、ベレンに 帰りましたが、間もなく 病気に な
り、その年の 九月十六日、六十才で なくなりました。

なし売り

ある 町に、なし売りの 男が 来ました。

荷車に、大きな なしを こぼれるほど もり上げて 売りに

来ました。たいそう おいしそうな なしでした。人々は 荷車の

回りに 集まって きました。買いたいと 思いましたが、あまり

ねだんが 高いので、

「まけて くれ。」

「安く して くれ。」

と 口々に 言いました。

なし売りの 男は、

「とんでもない。こんな 上等の なし、一文だって まけられる

(新漢字 説 決 荷 安 等)

(112.113 pg 抜けている)

人々は、これは おかしな ことだと 思って、ぼうさんに
つい
て 行きました。

なし売りの 男も、荷車を
そこに 置いたまま、ついて
行きました。

ぼうさんは 近くの あき地
まで 行くと、立ち止まって
なしを 食べ始めました。

人々は、その 回りに 集ま
って 見て いました。

ぼうさんは なしを 食べて
しまうと、種を 手のひらに
のせて、人々に 見せました。

「みなさん、この 種を まきます。どう なるか 見て
い
な
さ
い。」

ぼうさんは、足もとの土をほって種をうめました。そしてそばにいた子どもに、ゆを少し持ってきてもらい、その土の上にかけながら、小さな声で何か言っていました。するとどうでしょう。土がむくむくともり上がり、芽が出てきました。人々が「おやおや」と思っているうちに、ぐんぐんのびて木になりました。

(新漢字 芽)

(058. jpg)

木はどんどん えだを 広げ、
葉を しげらせて いきました。

見る 間に まっ白な 花が さ
き 花が ちって、えだ いっぱ
い 実が くなりました。

実は 見る 見る 大きくなっ

て、おいしそうに みのりました。

ぼうさんは、なしの 木を 指さして、にこにこしながら
言い

ました。

「さあ さあ、わたしの なしです。みなさん、えんりよなく
食

べて ください。」

これを 聞いた 人々は、喜んで われ先にと なしを ち
ぎって

食べました。なし売りの

男も、木に 飛びついて

ちぎりました。

「ただの なしだ。うんと

食べて やろう。」

と 手当たりしだいに ち

ぎって 食べました。

人々 その うちに、なしは、えだに 一つも なくなりました。

は、ぼうさんに お礼を 言って 帰って きました。ぼう
さん



も、どこかへ 行って しまいました。

なし売りの 男は、

「ふしぎな ことも あるものだ。しかし うまい なしだった。」

(059. j r a g)

と つぶやきながら、荷車の

所にもどって きました。

「あつ。」

なし売りの 男は、飛び上がっ

て おどろきました。車の 上

は からっぽです。なしは、み

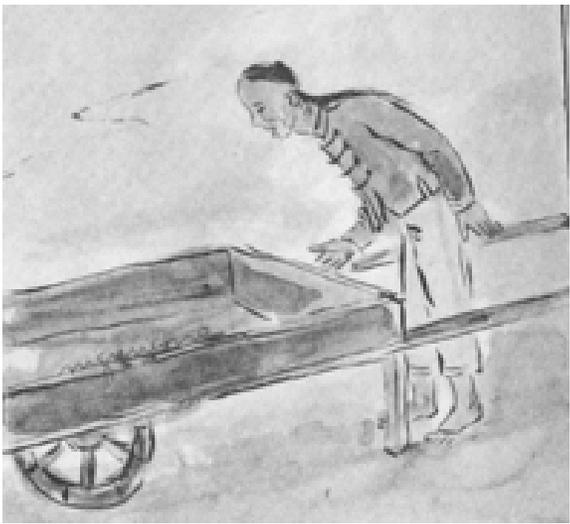
んな なくなつて いました。

「しまった。あの ぼうずの しわざだ。」

きちがいのように あき地へ かけて いきました。しかし、あき

地には、あの なしの 木も ありませんでした。ただ、土ほり

が 風に まい上がつて いるばかりでした。



先生と 父母へ

この教科書は巻(5)に続いて、ことばの成長とともに生活も広がっていくので、

題材を社会科、理科面に広げ、確実に読みとり、深く考えることによつて、話すことや、書くことも、正確、高度になるように、語いの拡充をはかることを目的

としています。さらに、話し合い、作文、共同研究などの作業にまで発展させるように希望します。

題材の 選定 児童の知識欲がだんだん高まり、思考力も芽ばえてくる心理的発達段階にあわせ、彼等の興味を考慮し、「物語」「わたしたちの国」「大むかしの人のくらし」「げき」「かん字について」「こん虫の話」「音楽会」の七つを設定しました。

文章表現 物語・生活文・会話文・脚本・説明文・解説風の説明文などにより、多角的な言語活動の学習ができるようにし、一般書物の読解力を養うようにしました。

語いと文字 語いは既習の日常生活語いを確実に習得させるため、そのくり返しを考慮しました。生活領域の広がりに応じてとりあげた題材ごとに、社会生活に必要な語いを提出し、児童の理解、使用の増加をくふうしました。漢字は、使用度数や、当国の事情を考慮して提出しました。またブラジル語表記に関しては、巻末のおもなことばの欄にブラジル語を記して参考としました

459 イソップ物語 童謡調の表現を味わわせる。おもしろさを読みとらせるばかりでなく、この寓話の奥にひそんでいる意味を読解させることが大切である。

10 わたしたちの 国 文の段落に注意させ、要点を読みとらせることが第一である。

それについて、国の象徴としての国旗・国歌の話、地図の見方からブラジルの話にはいり、ブラジルが独立するまでの経過を読みとらせる。地図の見方の能力をそだて、自分の国を積極的に研究しようとする意欲を起こさせ、研究の態度と能力を養う。とりわけ 社会科的語いを理解し、これを使用できるような指導を忘れないように。

28529 「花」につく ことば 名詞に続く助詞の使い方理解させたい。そのために、多くの例をかかげた文にしてある。29ページのもんだいの答は、次のようになる。

わたしたち【は】、学校【へ】行くとちゅう、パスト【の】そばの【の】、道【を】通りました。

白い牛【と】黒い牛【が】、草【を】 食べていました。そば【に】 小牛【も】いました。

30534 手品 この童話に表現されているユーモアを味わわせ、児童の心情につちかうものである。「その」「この」などの連体詞、「それ」「これ」などの代名詞、および「そして」「すると」「それから」「ところが」などの接続詞の用法を理解させ、その応用にいたらせる。

35548 大むかしの 人の くらし インジオの やり、むかしの人ののは人のくらし、ブラジルの インジオの 三部からなる。児童が、むかしの人の生活に関心をもつようになった心理的発達段落に応じて、原始生

活と石器などに関する社会科的語いを知らせ、インジオに対する親愛感を深くする。

49～54 目の 病氣 会話文を学習指導する。
その朗読にもなれさせる。トラコーマ、医者、

(127.128 ページ、抜けてる)

(062. jpg 右 pg 下段のみ。他漢字一覧表)

今までに ならった かん字

(1) 一二三四五六七八九十日小木下

川大上月子手足中牛人

(2) 石方出水赤青土口夕走目耳左右

女光外見声力本火白立金犬人山

(3) 行田先生年学校音合雨天気車歩

半分平回前字空広花汽長夏冬高

糸休貝早虫少知林元風作台夜組

村会馬品町黒色千何百国名書形

竹每思引古玉毛切友男地神今太

秋南野北森自正

(4) 来久話言当図画用紙度返事家草

(061. jpg 左pgのみ)

葉安心向朝持西多去聞時近東京
場海所文読次記間黄池王島根同
血止道考屋絵店米売買取明戸仕
原楽門全工美使春刀雲

(5) 教室新始番徒数相談角順若宮顔

重物動具板植注意員曜午後終受
昼集者歌助星寒々乗波遠族進住
命畑以守通勉強部祭運役急式客
谷晴才世弱死両追礼着食皮病配
語号指材料点母界父魚都州公園
市体育研究民苦感雪鳥表旅

(059. jpg左pg～061. jpg右pg迄、ことば一覧表)

(063. jpg 左pgのみ。上段、下段あり)

元文部省図書監修官
監 修 林 実 元
(在東京)

編集執筆(A B C順)

古野 菊生

二木 秀人

加藤 千重子

岡崎 親

坂田 忠夫

武本 由夫

表紙・挿絵(A B C順)

星 弘
半田 知雄

(下段)

日 本 語 (6)

一九六一年六月二十五日 印刷
一九六一年七月一日 発行

定 価

著 者 日 伯 文 化

日本語教科書刊行委員会

発行者 日 伯 文 化 普 及 会

ブラジル、サン・パウロ市、
サン・ジョアキン街三八一

東京都千代田区神田神保町三ノ二九

印刷者 株式会社 帝國 書 院

代表者 守 屋 妃 美 雄

発行所 日 伯 文 化 普 及 会

ブラジル、サン・パウロ市、
サン・ジョアキン街三八一